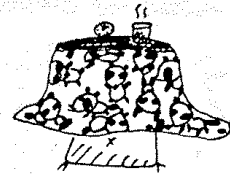


Nyctereutes procyonoides Chien viverrin Marderhund Raccoon dog 狸犬 Supikoira

狸  
狸  
貉  
貉  
獾  
八  
文  
字

# たぬきみち



エ  
イ  
ク  
カ  
ム  
イ  
マ  
ミ  
ミ

DECEMBER 1993  
ISSUE NO.3

TANUKI CLUB, THE RACCOON DOG INFORMATION NETWORK

р о д г о р н о й л и с ы Enotovidnaja sobaka Ussurijiskogo enota たぬき

●●●●●目次●●●●●

- |                            |             |
|----------------------------|-------------|
| I. 1993年度活動報告              | 佐伯 緑        |
| II. 地域ニュース                 | 朝日新聞・読売新聞より |
| III. 狸囃子 (参)               | 加藤 輝治       |
| IV. フィールドノート欄外夢想 (1)       | 佐伯 緑        |
| V. タヌキの里のかわいい古狸            | 市原 貞        |
| VI. タヌキの交通事故               | 瀬川 也寸子      |
| VII. タヌキのおもしろレポート          | 瀬川 也寸子      |
| VIII. お便り情報コーナー            | 加藤氏ほか       |
| IX. 書籍紹介                   | 佐伯 緑        |
| X. LATRINE BOARD・編集便り・著者紹介 |             |



## 1993年度活動報告

佐伯 緑

五月にニューズレター0号を発行し、タヌキクラブの発足を呼びかけてはや半年以上経ちました。現在会員は45名(アラ2団体)になりました。年会費800円は安いのか高いのか分かりませんが、カンパやコピー機の無料使用の恩恵に与り、なんとか黒字を保っています(表1)。まだ初年度会費未納の方も10名以上おられるので、完納されればもう少しゆとりができます。活動費を積み立てて、将来はデータベースの充実をはじめネットワークを生かした調査や懇親会開催など様々な活動を行いたいと思います。活動の提案や希望をどしどしお寄せ下さい。

タヌキ文献要約目録 (Tanukiological Abstracts)(図1、6頁)は、著者 (author)、発行年度 (date)、題 (title)、および照会先 (reference)のみで今月発行されました。追ってキーワード (keywords)、要約 (abstracts) または目次内容 (contents)、索引 (indices) を別冊発行します。タヌキに関する絵本から

学術文献まで様々なジャンルのものを206エントリー揃えました。名簿も今月発行されました。目録集と名簿の申込をされたい方は、振込用紙の通信欄ににその旨書き添えて1200円振り込んで下さい。会費(1993年度or1994年度)と共に2000円振り込まれても結構です。

1994年度もタヌキをはじめ全ての野生生物と彼らを愛する人々の益々の繁栄と活躍をお祈りします。

表1. 1993年度会計報告 1993.12.1

収入		支出	
会費	23,200	消耗品	11,878
カンパ	15,400	郵送料	15,537
目録集	12,000	備品	13,965
	50,600		41,380
			9,220

# 高速道

# 夕

# 又

# キ

# 寝

# 入

# り

# 難

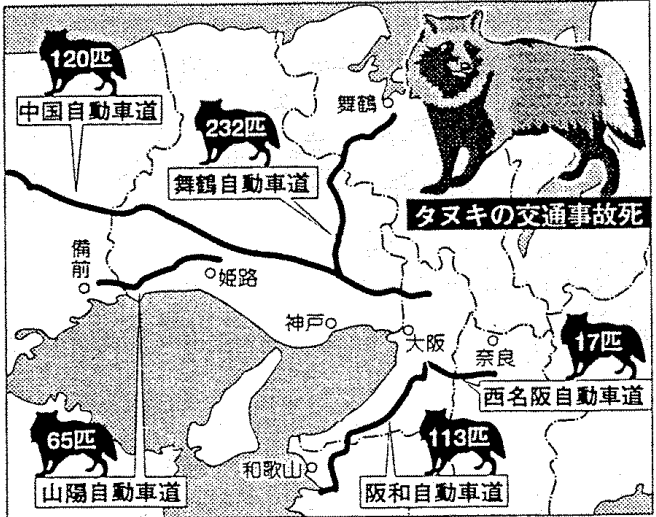
日本道路公団大阪管理局によると、同局が管理する近畿の七つの高速道路(約四百二十四キロ)で、昨年、四百八十三匹から六十五匹

許話や電話で親しまれるタヌキに、危険が迫っている。山では「けもの道」を寸断して建設された高速道路ではね飛ばされ、開発に追われて市街地に出れば、交通事故や感電死が待っている。近畿の高速道路だけで、年間約五百五十匹が犠牲になっている。道路を管理する日本道路公団は、フェンスを張るなど対策に乗り出した。

## 近畿年間550匹も犠牲

増えており、そのほとんどが死亡した。トップは舞鶴自動車道の二百三十二匹。次いで吹田、一佐用インタンの中国自動車道二百二十四匹、阪和自動車道

道百十三匹、山陽自動車道戸市・王子動物園の獣医、六十五匹、西名阪自動車道村田浩二さんは「タヌキは驚くと立ちすくむフリージング(擬死)という習性が多い。近畿自動車道は一匹、名神高速道路はゼロだった。九一年三月に全線が開通した舞鶴自動車道(全長約七十七キロ)では、その年、百七十六匹が犠牲に。今年九月末現在でも、すでに百



平日 93.10.23



神吉市の王子動物園に運ばれた若いメスのタヌキ。六甲山のふもと道路で車にはねられたらしく、腰から下を骨折して歩けない状態だった

約三・五キロを、動物が下をぐり抜けられない構造に改良、対策に乗り出した。

一方、市街地も、危険がいつか、兵庫県林務課によると、けがや感染症で県内の動物園、獣医科病院に運び込まれたタヌキは増える一方。九〇年度は七十四匹だったが、九一年度は九十四匹、九二年度は百九十四匹、九三年度は百九十四匹も増えた。大阪市の天王寺動物園でも、かつては年に二、三匹だったが、五年前から十四匹前後に増え、昨年度は十一匹。京都市動物園では昨年度、十五匹が運び込まれている。

の接点が多くなって事故や感電死も増えている」と分析する。

「重大事故を誘発されては大変」と、道路公団は昨年暮れから、約七百万円をかけて山間部のフェンス

重福「狸(たぬき)ばやんな拍手を受けた。」

し」で有名な木更津市富士見町の証誠寺(隆寛明住職)で二十三日、恒例のタヌキ祭りが行われた。その青、境内に住んでいたタヌキと住職が踊ったとの伝説に合わせ、タヌキの霊を供養するため、毎年この時期に行われている。

本堂でタヌキ供養の法要を営んだあと、木更津第一小の児童二十四人が「狸はやし踊り」を奏納した。タヌキや小坊主の衣装をまとった子供たちは軽快なメロデーに合わせて踊り、

## 狸と住職の舞

木更津で伝説伝承の祭り



狸ばやしの踊りを披露する児童たち

## タヌキ死して電車を遅らす

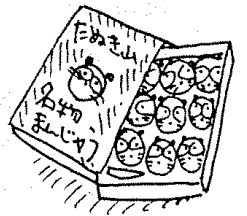
千葉 ポイントに挟まり信号機が故障

十一日午後十時四十分ごろ、千葉県旭市二のJR総武本線千瀬駅構内にある信号機が赤になってしまった。銚子発千葉行き上り最終普通電車(六両編成)が、信号機の直前で緊急停車した。乗客は驚き、車内は騒ぎになった。乗客が赤のまま信号機を押し続けたことがわかった。職員がタヌキの死体をポイントから取り除き、同電車は約三十五分後に運行を再開した。タヌキは、電車がひかれたらしい。このトラブルで、上下三本が最高三十四分遅れた。同駅周辺は、北側が商店街になっていて、南側は田圃地帯。約一キロ先には雑木林もあり、タヌキが頻繁に出没して、年一、二回車にはねられる事故があるという。

狸囃子 (参)

「駅長と狸」

加藤 輝治



狸の焼き物で知られたローカル駅の駅長は、もうずいぶん長いこと考えている。

「うちの焼き物の狸たちは、雄は茅笠、右手に徳利、左手に通帳、股間には八畳敷のシンボル、雌はと言えば最近の丰满な胸元と、パターンは決まっているけれど、どれもみな立ち姿。実際は狸の立っちょるとこんなかんじだ。狸で、ほんまに立っちょるねやろか。当直の晩に幾度か弁当の残りをほうってやったことがあったが、立って受けたことなぞついぞ見たこともない。一度立たせてみたい、すれば土地の焼き物がリアルかどうかわかるだろう、いやそれより何より実物は立たないなぞとあっては、全国から訪れる人々にこの駅長としては申し訳ない気がする。なんとか一度……」

しかし、狸は天性の靈感に邪気でも触れたのだろうか、駅長の当直にはびたりと遊びにこなくなった。実のところ、赤字つづきのローカル線に、第三セクター方式への移管話もちらほらのこのごろ、〇〇の狸はやっぱり立つ！とテレビでもとり上げてくれての起死回生、頭をかすめなかつたと言えば嘘になる。

時々、白長靴のまま夕飯のおかずを差し入れてくれる駅前弁当屋の女将に話してみた。「やってみませんか。もうせんにNHKが来たときも呼び寄せたことがありましてん。」

駅舎のほど近くを昔の請堤が走っている。駅長の次の当直の晩、女将はその土手に七輪を持ち出して、夕レつきの肉をあぶり始めた。駅長と若い駅員がビールの幻影に悩まされるほどのこうばしい匂いと煙が請堤を伝って雑木林のほうへ流れていった。そこいらに散在するアナグマの掘った穴の奥で闇の到来を待ちのぞんでいる今宵のタレントたちにも、もう十分にそれは届いているはずだった。

女将のこまめな箸づかいで次々と焼かれるご馳走はふたりの目前を通過して、脇に置かれた一メートル余りの置物の狸の茅笠の上に盛られていった。

三人の姿が七輪と共に離れた窪地にかくれたころ、あたりはとっぷりと暮れ駅舎の明かりが背中を照らしていた。ほどなく闇に動いた小動物の影にキツとなったふたりを女将は笑った。

「違いま、違いま。うちのミコが迎えにきよましてん。」そう言い残して、忙しくなりかけた店へ家猫を連れて帰っていった。七時代までは匂いにつられてやってくる猫どもを石投げて追っばらうのに大童だった。まもなくふたりは獣時というものがキツチリとあることを知らされることになった。駅員の腕に光る時計が八時を指すと猫の姿はびたりと途絶え、かわりにどこからか箒の尾をぶら下げた大きな獣が現れ、茅笠の上の焼肉を難なくかつさらった。「キ、キツネや。ふたりは空気をさげび、追っばらうのを忘れ見とれてた。やがて狐は観賞料に一きれだけにありつき、最も恐ろしい二頭の怪獣の咆哮と石つぶてを浴びながら消し飛んでいった。」

九時を過ぎると待っていた四頭の狸一家が現れ、背高い置物の周りを盆踊りのように巡っていたが、やがて親狸が背のびをして笠の焼肉をくわえ落とした。「立ったがな、立ったがな！」子と親父の分をさらい与えた雌狸は、置物にもたれ両手で食いだした。白毛の腹をこちら正面に突き出しながら……」

あくる日から、「そらまあ、あこへ徳利でもぶら下げさしたら、そっくりでしたわ。」と顔見知りの客に熱っぽく報告するわりに、駅長の心はどこか満たされてなく、それがテレビか新聞という広い世間の立会人がいなかたせいでと気づくと、我ながら己が性と職業意識の卑しさを嘆かずにはいられなかつた。

しかし、職務忠実のローカル駅の駅長の挑戦はまだまだ続いた。駅広場の片隅に捕らえた若狸の檻を置くアイデアは当たり前、名実の狸の駅と評判をよんだが、この若狸、電車の出入りの度のあの馬鹿でかい「パーイン」が鳴るとボコンとひっくりかえって失神し、又別の人気を集めた。でも駅長は動物愛護会あたりから文句の出ないうちに、そっと檻を片づけなければならなかつた。

駅長の定年までは、まだしばらくの月日が残っている。

(註)あの事故の遠い以前の話でございます、ハイ。



私はタヌキの行動様式などを知りたいのだが、深い藪の多い生息圏では観察もままならないし（それも夜間）、鼻もイヌ程鋭くもない。そこで文明の利器を使ったTELEMETRY法しか思いつかなくてやっている。ここではフィールドワークの合間に、愚にもならぬことを思ったり思い出したりしたことを書いて行きたい。

私は一番安全性の高い（と言われる）籠罠（写真1）を使っているが、これはまだまだ技術改良できるだろう。私の使っているのは折り畳み式でたくさん車で運ぶのには便利だが、重さは結構あり二つ持って山に入るとなかなかの重労働だ。これにタヌキが入ると水平に保つのも思うに任せられないし、篠竹や藪の中は円みを持った形の方が通り易い。また、捕獲動物が出ようとして鼻の上を擦りむくことがある（リスとタヌキで経験）。金網を噛んで歯茎から血を出したもの（テン）もいた（そりゃあ林檎より硬い）。メッシュを細かくするか箱罠にすれば防げるであろうが、重量とコストの面でどうだろうか。長年にわたり甲乙兩種で獵をやっておられた市原氏は、写真2のような両ドア式の軽量かつ安価（廃品利用！）な罠を試作された。ドアを少し改良すれば上に挙げた欠点は解決できる。

私が以前アメリカテンの調査をしたときも籠罠を使ったが、30-40もの罠をチェックするだけでも随分と時間が掛かったものだ。まだ半分しか見回ってないのに四頭捕獲できた日もあった。麻酔を打つ、体側を取る、前臼歯を抜く、発信機を着ける、などのプロセスに小一時間は掛かるので焦った覚えがある。罠を掛けた者の宿命は、掛かった動物にストレスを長時間与えないよう、掛けた以上はたとえ這ってもしらなくても見回りをきちんとやることだ。現代の技術をもってすれば掛かった

ことを自動的に知らせる罠など造作もないことだろうが、コスト面の問題がある。ただ丘の上の方に仕掛けた罠には、中古の発信機に磁石を付けて発信を止め、その磁石と罠の落とし戸を糸で結び、落ちれば発信するようにしていた。これで毎日登らずに済んだ。途中回収した発信機が常に在庫にある大学だからできたものだが。

夢物語を許してもらえたら少し遊んでみよう。究極の罠は捕獲時間や体重を記録し、捕獲時点でポケットベルの様なものに知らせ、ターゲット種以外や再捕獲個体なら直ちに自動放逐する。タイマーまたは遠隔操作で開門も行える。ターゲットによって誘引する臭いや音を出すことができる。勿論エサを置くこともでき、防水性や冬場の保温性も高い。本体は無臭で金属の光沢などもなく、軽量で耐久性にも富んでいる。（しかも安価である！）  
・・・ドラエモ～ン！

最後にテレメ怪談をひとつ。

『彼女はある冷え込んだ夕暮れに追跡していたテンを死体で発見した。死因は解剖を待つしかないが、マイナス20度の外気に晒されカチンカチンに凍った死体を胸を詰まらせながら回収した。発信機を取り付けたことが死期を早めなかったろうか、という思いが拭いきれない。翌日から彼女はそのテンの亡霊に付きまとわれた。

彼女は十数頭のテンを追跡していたが、死亡したテンの周波数に近い個体に受信機を合わせると、微かにもうひとつ発信音が聞こえるような気がする。その方向を定めようとしてもいつも360度から聞こえるのだ。そら耳だろうか。数日後、彼女は思い切ってあのテンの周波数に合わせてみた。

突然、受信機はその最大の容量で鳴り始めたのだ。ああ、許しておくれ・・・

彼女はふと思いだした。回収した発信機をそのまま背中の中のザックに入れていたのを・・・』

写真 1

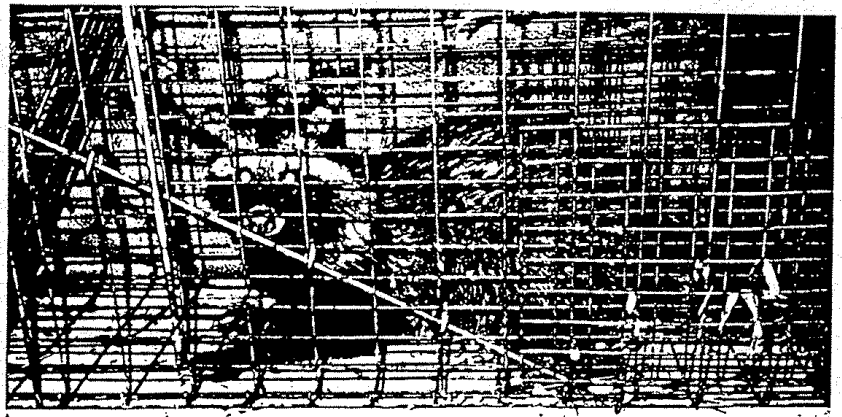
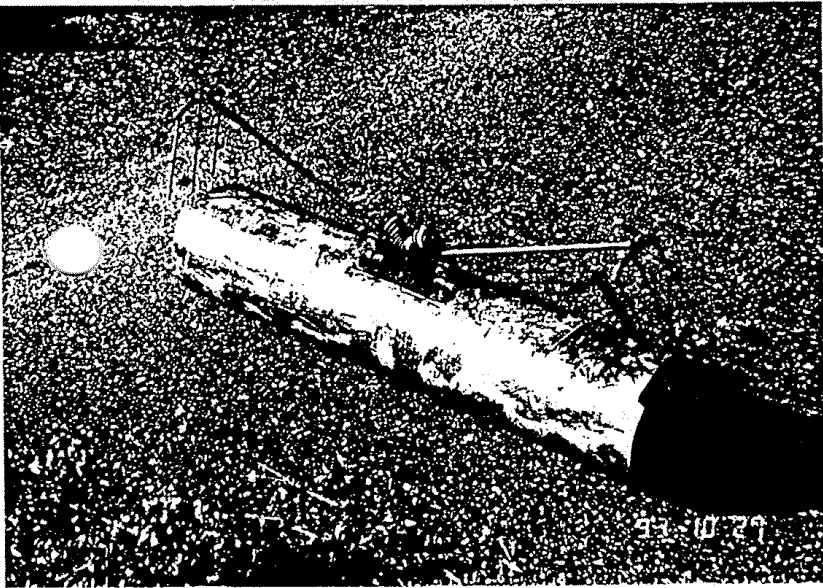


写真 2



タヌキの里のかわいい古狸

市原 貞

鉄骨（通称、生家の屋号でコマド、コウバ、鉄骨）が六七才の頃の事、若いつもりだが、もう五七八年前になりますか、現在睦沢町緑地休養施設地内にある「やすらぎの家」（区民の集会所）の場所に、檀家二六七軒を持った東福寺といふ小さなお寺があり、鉄骨の生家は其の檀家で、今は同じ天台宗の同じ区内にある東光山歓喜寺に合寺しましたが、其の小さなお寺のおばあさんの話。

其の頃は盆、暮れには米とか御馳走を作ってお寺さんにつけとだけをする事が当たり前で、鉄骨も持って行かされた事も二、三回。当時は、タヌキはもちろん、キツネとかキツネ火、人玉が飛んだとか、言ふ事を聞かぬとテンが来るとか、いろいろ脅かされたもの。鉄骨の仲間にもキツネ火と人玉とかは見たと言ふ者は何人か居り、一緒に居ても見える者と見えぬ者が居るとか。鉄骨は見えぬ方だったが、お寺のおばあさんの話では、毎晩のようにタヌキが来て、雨戸を尾っぽでとんとん、とんとん、と叩き、「ばあらん、ぼた餅ちゃちゃめんこがい、よ、ばあらん、ぼた餅ちゃちゃめんこがい、よ。」と言つてまたとんとん。（ちゃめんこ、とはキチコの事だと思ふ）村の人達も其の話は知つたようで、鉄骨も、タヌキはちゃめんこのぼた餅がそんなに好きかなと思つたが、お寺のおばあさんはタヌキよりもっと好きだったのではななかりうか。いつか鉄骨も、タヌキの山にちゃめんこのぼた餅を持って行って仲間入りをさせてもらおうかな。

現在おばあさんのお孫さんが建てた寺家家（じけけ）のお墓が歓喜寺にあります。

（編集者註）「ばあらん」とはタヌキ語らしい。

戸を叩く狸と秋を惜しみけり（無村）



先日、里山の動物調査で一晩を野外で明かし、早朝帰京する折りに、京奈和バイパス内でタヌキの交通事故死体に遭遇した。”あ”と思ったが車は止められず、その状況とまわりの様子だけばっと見て通り過ぎなければならなかった。大きさと毛並みから、たぶん成獣で、口から出血しており、おそらくバーンと道路脇にはね飛ばされたのだろう。事故からそう時間はたっていない様子であった。10月23日付の朝日新聞にも大きく出ていたが、野生動物の中でもタヌキの交通事故での死亡率はだんとう一位を占めているようだ。しかし、臆病者のタヌキがなぜ高速道路へ近づくのだろうか？

ともかく、一年を通じてタヌキの交通事故は絶えないのである。それもほぼ同じ地点で起こっているとすれば、やはり以前獣道であった所を、または生息地の中央を道路が分断するような形でできてしまったため、いくつかある餌場へ行き来する大事な道が奪われてしまったためと言えるかも知れない。交通事故にあったものはほとんどが死亡している。私が今まで見たものでも頭骨（片面の顔面も含めて）の骨折、または腰と後ろ足の骨折にとりなう内臓破裂がほとんどだった。まともに跳ね飛ばされてしまっている。そうであっても、その後もその場での事故が絶えないとなれば、タヌキ達にとっては命がけでもそこを

通る必要性があるといえるのではないだろうか。

以前テレビでクサガメ（ヌマガメ）の交通事故の実態を放送したことがある。クサガメは産卵場に行く為に毎年同じ道を通っていくよ”うだ”と言うのだ。そこへ行く途中に高速道路ができた。それでもカメ達は産卵するためにいつものようにその道を高速道路であることもかまわず（カメにとってはどんなに変わろうとも自分達の大切な道に変わりはないのだ）通っていった。結果は、当然何匹ものカメ達がお腹に卵を抱えたままペシャンコ！である。運良く産卵して帰っても、そこから孵った子ガメ達が、そして無事だった親ガメがまた何年後かに同じことを繰り返す、そこを通る。だから交通事故が絶えないのだと言っていた。その事実を知ったとき、私の胸ははりさけそうだった。

それにも関わらず、その後も次々とその手の道路が増えている。フェンスをつければすべて解決などという人間中心の考えではなく、動物達の領域を犯していることも考えて策を講じていただけたらと思う。例えば、多くの野生動物が生息している所の一帯は道路を高架にするとかまたは、動物達の通り道になるルートを設けるなどである。タヌキ、ウサギ、シカの飛び出し注意！の看板など本当に必要なしにしなければいけないと思うのである。最もこれ以上道路を増やさないことが一番ではあるが、まあこれは難しいことであろう。

図1. Tanukiological Abstracts抜粋

1	INDEX NO.	1
2	AUTHOR(S)	Arlois, H. and H. J. Duchene
3	DATE	1982
4	TITLE	Premiere identification du chien viverrin ( <i>Nyctereutes procyonoides</i> ) Gray en France.
5		
6		
7	REFERENCE	Mammalia 46: 265-267.
8	MEDIA	J
9		
-----		
1	INDEX NO.	2
2	AUTHOR(S)	Asahi, H.
3	DATE	1979
4	TITLE	タヌキ、テン、アナグマ、イタチおよびキツネの捕獲数の変動
5		
6		
7	REFERENCE	哺乳類学雑誌 7: 324-340.
8	MEDIA	J
9		

## タヌキのおもしろレポート

静岡県 御前崎の近く、<sup>ハイバラ</sup>榛原のとあるお茶畑近くに  
タヌキのため糞があったそうです。何とこのため糞から芽が  
でて 夏のある日 行ってみると 何と トマトが なっているのでは  
ありませんか。 それは甘い おいしいトマトがなった  
という おはなしです。 その タヌキは トマトを 食べ  
ていたのですよね。 もしかして どこかの ため糞からは  
桜の木、柿の木が なっているかもしれないですよね。

タヌキは 自分の 食べ物 は 栽培している？ うーん これはすごい！



⑤記者でした。  
(奈良女の畑せん情報提況  
ありがとうございます。)



## お便り情報コーナー



### ★その1 本紙連載中の加藤輝治氏より

「潮のように街に帰ってくる。」と、タヌキを書いた長編のあとがきで述べたが、このごろほんとうに頻繁に出会わす。哀れなことにコンクリート舗装に長々と横たわる息せぬ彼らと、ではあるが。しかし、おとついの晩は違った。大の医者嫌いのJルソーの向こうを張っての30年来の1里散歩。家からわずか10分ほどの金魚池で採餌中のあいつの小山のような後ろ姿を見つけ、犬のごん太と共に棒立ちとなる。——噫、はるばる防府までの何の取材行きであったか、はたまた何ゆえ房総くんだり雑木林を訪う日を焦がれて至ったのか。

「たぬき道」巧みなるコンダクターのせいなのだろうか、身辺の日々がしだいに黒褐色のキャラクターで埋まるのを覚え微笑におそわれる。

イダケケナク コイオウツタイ。

### ★その2 ドイツで研修中（実際何をやっているのだから——本人談）の高柳敦氏よりタヌキクラブのクラブ歌を頂きました。

タヌキクラブ クラブ歌（この道はいつか来た道の節で）

1. この道はタヌキ来た道。ああ、そうだよ。タメフ〜ンの臭い満ちてる。
2. この道はタヌキ好きの道。ああ、そうだよ。タヌキ情ほ〜うの花が咲いてる。
3. この道はいつか来た道。ああ、そうだよ。ドブク〜の臭い忌まわし。

（この歌を公開されると、あいつはドイツで何をやっている（実際何をやっているのだから）のだと言われかねないと懸念しています。）

ソノクネハ アタツイムカシクナイ。

### ★その3 ラブラドルリトリバー、メイちゃんの飼い主（お母さん）の相良さんより 小さい頃、うさぎ、きつね、たぬきの毛皮の首巻きを持ってました。うさぎ・きつねは年数がたっても臭くなかったけれど、たぬきは臭くて臭くて！これってどうしてでしょうかねえ。

トラハツツケカワヲノツ タヌキハツツケイノリス。

『フィールドガイド・足跡図鑑』  
TRACKS, TRAILS AND SIGNS OF THE  
JAPANESE LAND MAMMALS

子安和弘著・生川典子イラストレーション  
日経サイエンス社 1993年 178pp. 1500円

タヌキクラブへの初の寄贈本である。そして日本で初めてのまとまったフィールドガイドである。アメリカの有名なピーターソンフィールドガイドは1954年に発行されたが、日本では40年近く後になったことになる。著者も述べているように、見る機会の多い鳥類に比べ哺乳類は目だたない。バードウォッチングがアニマル・トラッキングより盛んな訳であるが、この本を読み且つ見ればアニマル・トラッキングもなかなか奥の深いものだとわかるだろう。構成は足跡図と足跡データを中心として足跡のつき方、足跡一覧、アニマル・トラッキング入門、用語解説、ライフリスト、参考文献、そして和文と学名の索引からなっている。データには分布・形態・ロコモーション・フィールドサインなどについて説明があるので、フィールドガイドとしても読み物としても、野生動物好きには垂涎の的になるだろう。

これをフィールドに持っていく時は、きれいなカバー（オコジョとハクビシン）をはずし、10.5 x 17.2 cmのスリムな体をポケットに忍ばせよう。そうすればフィールドでよれよれになっても、本棚に戻るときにはカバーをつけあたかも新品を装える。フィールドガイドは汚れる運命なのだ。とはいえ、この本はピーターソンに比べると紙質が良いので、雨や雪でぼこぼこになるには、相当使い込まないといけない。フィールドノートとして白紙が3ページついているが、足跡図には余裕があるのでそこにも色々書き込んで自分なりのFIELD GUIDE & NOTEにしてもよいだろう。

(文責：佐伯 緑)

1994.5.15-20. "Nature Conservation: The role of Networks," intl. conf. of CSIRO Div. of Wildl. & Ecol., Centre for Conserv. Biol. Auckland U., W. Australia. (詳細は Dr. Denis Saunders, CSIRO Div. of Wildl. & Ecol., LMB No.4, PO Midland, Western Austraria, 6056. TEL61 9 2520111, FAX61 9 2520134.)

かもしかの会滋賀県土山・春の作業参加者募集。期間は3月18-21日頃の子定。詳細はかもしかの会関西/土山係 TEL 06-849-7610 瀬川也寸子まで。

タヌキクラブでは、会員と原稿を随時募集しています。入会案内(たぬき道0号または英文入会要項)は事務局まで。

本欄では皆様からの伝言や催し物の紹介及び宣伝、探し物などの掲載依頼をお待ちしています。

編集 下より

忙しさというものは、その本質より、ホアノに分布的に向いてくる。バツの日にタヌキが捕獲され、原稿書きが重なる。目録とプリントアウトしようと思えば、印刷ターンの遅延が懸念される。来週こそは休みを取らざると思いつつ、何月何日。今度こそ犬を連れて海まで歩いてみたい。そして夜普通に寝てみたい。(笑)

著者紹介

佐伯 緑 (SAEKI, MIDORI) = 夜行性のタヌキと昼行性のイヌにつき合う睡眠不足人間。  
加藤 輝治 (KATO, TERUJI) = 奈良県在住。日本ペンクラブ会員。日本動物愛護会会員。  
市原 貞 (ICHIHARA, TADASHI) = 元長生郡猟友会陸沢町支部長。日本発明協会会員。乙種猟歴20年及び甲種猟歴15年(現在は引退されている)。鳥獣剥製制作も数多くこなしてきた。  
瀬川 也寸子 (SEGAWA, YASUKO) = 絵本作家で幼稚園の先生もしていたというタヌキ研究者。

タヌキクラブ事務局  
〒299-44 千葉県長生郡陸沢町寺崎1306  
市原 貞方  
TEL & FAX 0475(44)1691  
郵便振替口座 大阪8-251165